

子どももの国 だより



2006.10.発行 vol.15



活動内容

- 放課後学習支援事業「ゆめの木教室」
 - ・小学生:月曜～金曜日 午後2時～6時
 - ・中学生以上:都合の良い日を決めて個別指導
- 「わくわく教室」
 - ・随時(但し土日と夏休み期間中)
- 中学就学年齢以上の子どもの自立支援事業「そら」
 - ・水曜日 午後6時30分～8時30分
- 青少年の健全育成のための事業
 - ・問題を抱えた子どもとその家族に対し、随時相談・援助を行う
- 交流会
 - ・奇数月第3土曜日 午後6時～9時

ゆめの木教室 ゆめの木教室の夏休み 2006

基礎学力定着をめざし、『ゆめの木検定』 始まる！！



本年度の子ども達の目標は「基礎学力の定着」です。小学校の元ベテラン教員であるスタッフから「子どもたちは毎日宿題で漢字を書いているが、意味も読みも理解しないままただ写しているだけ。あれでは全く漢字は定着しないし苦痛なだけ」「算数の計算も、4～6年の高学年ですら九九が遅いか間違えている。これでは計算に苦手意識があって当然」という指摘がなされていました。普段は毎日の宿題をこなすだけで子どもも精一杯。そこで、夏休みの目標は「基礎学力の定着」に決まりました。

2人のスタッフが漢字(読み)と計算(九九の100マスなど)のテストを10段階で用意し、テスト形式で『ゆめの木検定』として実施。子どもたちが達成感を味わうことができ、すぐに結果と状況がわかるようにするため、時間内に合格したら「金」「銀」「赤」シールを張って掲示しました。結果は、子どもたちは予想以上に集中して真剣に取り組み、スタッフで決めていた「子ども全員がひとつでもシールを」という目標はクリアすることはできました。

勉強以外では、今年度は工作やポスターで学校時代に賞を取ったスタッフが、工作やポスターの技を指導し、楽しみながら芸術的な作品(?)に取り組むことができました。

せっかく苦労して終えた宿題も、なぜか提出日に忘れる子どもが続出。「基礎学力」とともに「提出日に出す」ことも基本を徹底したいね、スタッフで苦笑いしながら夏休みを終えました。



夏休み反省会 8月31日(木)、夏休みの最終日におやつ作りを兼ねてちょっとしたパーティーをしました。

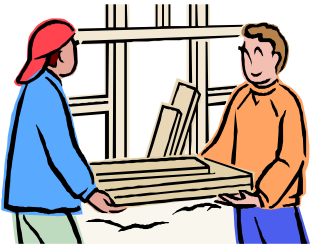
勉強の前にババロアを作り冷やしている間にお勉強。出来上がったババロアを食べながら、子ども達・スタッフの皆、一言ずつ夏休みの反省を言いました。最初は恥ずかしがってみんなの前で言うのを躊躇している子ども、慣れてくるとどんどん質問を浴びせている子ども、話したくてしょうがなくなっている子どもと様々でした。



「動物のいるところ、パパ、ママ」などと単語をつなぎ合わせただけの言葉でも一生懸命さが伝わってきました。

お父さんと魚釣りに行った子、家族で海に泳ぎに行った子、親戚の家でバーベキューをした子、タイで象に乗ったスタッフ、ゆめの木に頑張ってきたスタッフ、それぞれ夏休みにしかできない思い出ができたようです。

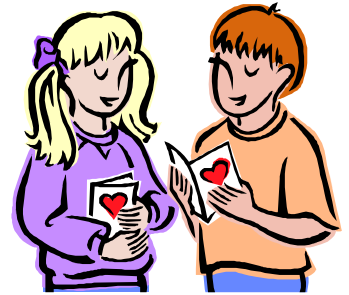




そら

真夏の暑い一日、中学卒業後のそらメンバー（15歳から18歳）5人とスタッフ二人で、ボランティアをしたいというメンバーの要望に応え「ひまわり学園」（知的障害者通所施設）を訪問しました。午前中はウォーキングに同行、午後はそれぞれのサークル活動（楽器演奏・紙すき・貼り絵）に参加しました。初めは緊張して不安げなメンバーも、無条件で心を寄せてくる、通所者の方々の正直でストレートな行動に、あっという間に笑顔が広がりました。人見知りをするものの、もともと心が柔らかいメンバーは、通所者の独特な明るいパフォーマンスを自然に受け入れ、次第に笑い声ももれはじめました。弱い立場の他者を理解しようとし、一緒に楽しめる心を持ち合わせたメンバーに、嬉しい驚きでした。

バスで帰る通所者を見送り、無事ボランティア体験終了。そらメンバーの感想「楽しかった。また必ず来たい」「いい体験をさせてもらった」こんな言葉が聞かれるのは、この体験が、心地良かったり、励まされたり、大切なものを感じられたりと、言葉にはうまくでても、そんな事を感じた表れだと思いました。



これからも、そらメンバーには、色々な経験ができる機会を作り、社会へ飛び出す時のエネルギーを少しでも蓄えられたらと思っています。



交流会



5月、今年度の総会の後に行った交流会では、ゲストの方々や子どもたちと保護者、子ども国スタッフも合わせて約70人が集いました。子どもたちはたくさんのゲストを前に少々緊張ぎみでしたが、ゆめの木教室で練習した詩を元気に発表してくれました。

各月、子どもたちのお誕生日会に加えて、ゆめの木教室でがんばった子どもの各種表彰も行っています。9月には夏休み中にがんばって計算検定と漢字検定をクリアした子たちが表彰され、ゆめの木特製メダルを獲得しました

また、毎回子どもたちとの工作やゲームの時間と今年度は保護者の方対象に年間を通し、テーマを決めて「子どもの進路についてのお話会」を行っています。9月には、今年公立高校へ進学した外国籍の生徒とご両親をゲストに迎え、入試に向けての勉強の仕方や高校での勉強の仕方、親として気をつけてきたことなどをお話していただきました。11月には「日本で働くということ」をテーマに、ハローワークの方をお迎えし、お話をしていただきます。また1月には日本の社会で働いている外国籍の方をお迎えし、経験談等をお話していただく予定です。交流会でのこのような企画を通して、子どもや保護者に必要な活きた情報を伝えられたらと思っています。



春から夏休みにかけて、ゆめの木教室の体験見学をされた
愛知県立大学の学生さんより、感想を寄せていただきました。
一部を紹介させていただきます。



外国人の親には義務教育が課されてなく、子どもに教育を受けさせるかどうかは親の判断次第であることや、今の外国籍の子ども達の教育への課題を初めて知った。

日本語で日本語を教える難しさも今日改めて感じた。今日接した子どもの中に、日常会話は支障ないが、学習言語としての日本語になるとほとんどわからないという子がいた。その子と算数の文章問題をやったのだが、うまく「たす」とか「ひく」とかを説明できない。また、読書では簡単な絵本なのだが、その意味を教えるのにとっても苦勞をした。子どもたちに「わかった？」と聞くと「わかった。」と答えるが、実際はよくわかっていない。しかし、そうわかっていても私もうまく説明してあげられない。とてももどかしく感じた。

スタッフが自分たちの帰りを待っている嬉しさ、安心感もあるのではないかなと思う。お母さんやお父さんが仕事で忙しくてなかなかかまってくれない分、子どもたちにとって安らげる場になっているのではないだろうかと思う。今度私が、ゆめの木教室に参加するときには、子どもと一緒に会話を楽しみながら一人一人の子どもにあった勉強方法を探していけたらいいなと感じた。また、遊びの引き出しをもっと増やして、子どもたちと一緒に遊べたらいいなと思った。今回教育臨床という授業を通して、ゆめの木教室という場でスタッフの方々や子どもたちに出会うことができ自分の世界が広がった気がした。ありがとうございました。



ゆめの木教室の子ども達はいつも明るくて、真面目に学習に取り組んでいる子が多かったです。私が小学生のころよりずっと勉強していると思います。それでもたくさんやらなければ追いつけないようなので、外国籍の児童に対する学習支援はこれからも拡大していかなければいけません。



是非また会いに来てください！

NPO 法人 子どもの国



ホームページ <http://www.kodomonokuni-aichi.org/>

メールアドレス kodomonokuni1999@yahoo.co.jp

